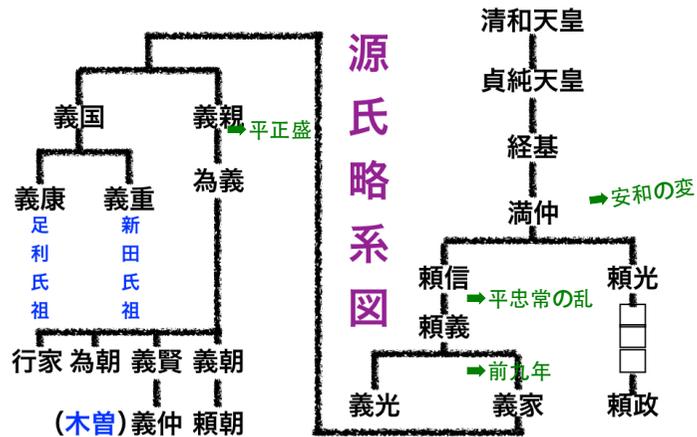


Pain is inevitable Suffering is optional

12 地方の反乱と武士の成長

NOTE 武士の出現

9世紀末から10世紀末にかけて地方政治が大きく変化していく中で、地方豪族や有力農民は、勢力を維持・拡大するために武装、各地で紛争が発生、その鎮圧のため政府から
 → **押領使**・追捕使に任じられた中下級貴族の中には、そのまま在庁官人などになって現地に残り有力な**武士**（兵）となるものが現われた。
 開発領主（主人）は **家子**（同族） **郎党**（従者）を組織して武装集団を形成、東国は**良馬の産地**で機動力ある武士団が成長した。



承平・天慶の乱

藤原純友の乱939 平将門の乱939

伊予の国司藤原純友、瀬戸内海
 の海賊ひきいて**伊予**の国府や**太宰府**
 を攻め落とした。

純友は**追捕使**で清和源氏の祖
源経基らに討たれる



東国の大半を占領し**新皇**と称す

将門は**常陸・下野・上野**の3国の
 国府を攻め落とし自ら国司を任命
 東国武士**平貞盛・藤原秀郷**に
 鎮圧される

承平・天慶の乱の結果、朝廷の軍事力の低下が明らかとなり、地方武士の組織はいっそう強化された。また、地方武士の実力を知った朝廷や貴族たちは、彼らを侍として奉仕させ、9世紀末に宮中警護を目的とし、清涼殿東庭北側の滝口に設けられた**滝口の武者**が詰所に置かれた。**朱雀**天皇の時代も記憶したい。

刀伊の来襲

藤原隆家は大宰権帥を兼務して来襲を撃退した。**刀伊**は高麗・**対馬**・**壹岐**を襲った後、九州北部に来襲した。

源氏の進出 系図を見ながら…

清和天皇の孫六孫王が臣籍降下して**源経基**を名乗った。
 その子**源満仲**は摂津国多田荘に土着して**安和の変**で活躍、摂関家優遇
 子**源頼信**は藤原道長に仕え河内守となり**平忠常**の乱（**上総**）で鎮圧に活躍
 …**源氏東国進出の契機となった**…事件は丸暗記。
 子**源頼義**は、陸奥守として子**義家**とともに**前九年**の役で安倍氏を滅ぼした。
 義家は**後三年**の役で武家の棟梁の地位を固め、院の昇殿を許された。

TOPIC



清和天皇の嫡流である源氏一門は八幡大神様を氏神として尊崇し、その信奉の念は格別で全国各地に八幡大神様を勧請しました。源義家は石清水八幡宮で元服し自らを「八幡太郎義家」と名乗ったことは有名です。

源義親

1107～08年、義家の嫡男**義親**が九州の任地で略奪を働いたことにより追討を受けた追討使は

→ **平正盛**。

センター日本史問題を解くと、どこを覚えるかが見える

例題 2010年度センター

武士が勢力を拡大する過程で起きた出来事を述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- Ⅰ 源頼信が、関東地方で起こった平忠常の乱を鎮圧した。
 - Ⅱ 源義朝が、京都での兵乱に東国の武士を動員した。
 - Ⅲ 源頼義が、前九年合戦に関東地方の武士を動員した。
- ① Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ ② Ⅰ-Ⅲ-Ⅱ ③ Ⅱ-Ⅰ-Ⅲ
 ④ Ⅱ-Ⅲ-Ⅰ ⑤ Ⅲ-Ⅰ-Ⅱ ⑥ Ⅲ-Ⅱ-Ⅰ

受験生の苦手な分野。源さん平さんがいっぱい出てきて混乱するね。この問題は時代か。源氏の権力者が誰かを頭に入っていれば解ける問題だ。そのためには、系図をよく見ることです。左上の源氏略系図の人物名に、戦乱を書いてみることを勧める。満仲に**安和の変**というように。

Ⅰは平忠常の乱（1028～31）なので、11世紀前半。源頼信の子がⅢの源頼義です。Ⅱは源義朝が関わった保元・平治の乱で12世紀後半のこと。Ⅲは前九年の役（1051～62）で11世紀後半です。以上からⅠ⇒Ⅲ⇒Ⅱと解答したい。正解② 正答率58.0%

100点へのキーワード⇒平安時代の武士の争乱は源氏・平氏の関係者で整理する！



TOPIC

将門塚と祟り

関東大震災で大蔵省庁舎が全焼。新庁舎建設前に将門の首塚を発掘調査を行った結果、盗掘され何もなかったため、塚を破壊し埋め立て、仮庁舎を建てました。

それから数年後、大蔵大臣早速整爾が病死亡したことを契機に、建築に携わった人、現職の課長を筆頭に十数名の職員が不審な死を遂げ、「首塚を荒らしたからだ。」と将門の怨念説が大蔵省内で広がりました。このため省内の動揺を抑える意味で、昭和2

年に「南無阿弥陀仏」と書かれた鎮魂碑が首塚の前に建立されています。